

第 3 回懇談会意見まとめ

本橋（あ）委員

- ・ 数値目標が謙虚すぎるので、高い目標を設定すべきだと考えるが、三方よしという観点では、観光客、事業者、市民のバランスを取る必要がある。
- ・ 食事、訪問先、コンテンツなど宿泊と連動して地域全体が動くように考えて取り組むことが重要

北村委員

- ・ インバウンドにおいては小さいことでも発信していくことが重要であり、地域特有のストーリーで説明できるコンテンツが必要。必要に応じて、奥多摩や近隣と連携して長期滞在向けのプランに取り組む。
- ・ まだ交通インフラ、宿泊施設等が整備されていないため長期的に取り組むことが重要
- ・ インバウンドでは、英語で説明でき、日本の歴史の知識を持っている人材の育成が重要で体制整備が必要。

嶋田委員

- ・ 戦略と数値目標は密接に連携させる必要があり、挑戦的な目標となるようにしたほうがいい。
- ・ 4つの基本戦略で推進する施策については、選択と集中の強弱をつけることが重要

本橋（大）委員

- ・ 今後は、市の特徴を生かして自然景観と歴史を組み合わせた取組が今後重要になると感じている。

鞆矢委員

- ・ 三方良しのコンセプトは良いが、全体としてインパクトが弱くなっている。

小澤委員

- ・ 団体旅行を受け入れる環境がコロナ禍を経て減少している。個人旅行も大事だが団体旅行と両立させていくように環境を整備していくことが肝要。
- ・ 観光ガイドブックにも載っていない面白い場所がまだある。その魅力を如何に発信するかが大事。

村上委員

- ・ インバウンドの施策では、現状把握や環境整備に触れられているが、海外へ広く発信していくことも重要。

横澤委員

- ・ いつまでに誰が何を行うのかを明確にする必要がある。役割分担では観光事業者のみならず事業者として幅を持たせるといい。

小島委員

- ・ 民俗芸能として獅子舞などあるが、獅子舞を行う人は、観光として認識していないため、観光として人を呼ぶコンテンツとする場合は、観光側からもっとPRをする必要がある。

金井委員

- ・ 新しい市民ホールの建設に合わせて、観光の観点から伝統文化の資源を可視化する提案をしてもいいのではないか。
- ・ 美術館の改装なども地域の木材など、地元の素材を使用し、観光の視点からアピールするための機会とさせる方法もあり得る

越前委員

- ・ 地域に受け継がれている伝統行事などがまだ十分に知られていないため、積極的に情報発信をすることが必要である。
- ・ 色々なツアーやガイドが市内で行われているものが、それらを繋げていき、財産として積み重ねていくことが必要